

ファーストリテイリングの柳井会長が、バングラデシュのムハマド・ユヌス氏率いる貧困者向け少額融資機関「グラミン銀行」と合弁会社を設立し、ソーシャルビジネスに進出することになりました。グラミン銀行とムハマド・ユヌス総裁は、2006年度にノーベル平和賞を受賞しています。流通とSC・私の視点でも「金融業と志とノーベル賞」(2006年12月20日)と「ムハマド・ユヌス氏とソーシャルビジネス」(2009年5月2日)を取りあげました。ファーストリテイリングは合弁会社「グラミンユニクロ」をバングラデシュの首都ダッカに設立し、資本金10万ドルでファーストリテイリングが99%出資します。グラミンユニクロは女性下着や学校の制服等を製造し、グラミン銀行の借り手である農村部の女性を通じて販売します。価格は現在の物価水準に合わせ、平均1ドル程度で販売するそうです。布地など材料も現地で調達し、得られた収益は現地で雇用拡大等に回します。

ここで、「グラミン銀行」と「ソーシャルビジネス」について、解説します。

①グラミン銀行

バングラデシュで1983年にムハマド・ユヌス氏が、農村の貧困層救済のために創出した銀行で、貧困層が経済的に自立して生活できるように無担保で少額融資を行っています。約767万人に68億2,000万ドルを融資しており、大半の借り手は女性で、2006年にはユヌス氏とともにノーベル平和賞を受賞しました。

②ソーシャルビジネス

事業活動を通じ、貧困や福祉、教育等、社会問題を解決する手法で、社会的事業や社会的企業と呼ばれています。援助や慈善とは異なり、一定の収益を確保することで当事者の持続的な活動が可能だとして、非営利組織(NPO)法人や企業が取り組んでいます。

このような性格を持つグラミン銀行との合弁やソーシャルビジネスへのファーストリテイリングの参画は、ファーストリテイリングの世界戦略の一環としての「企業の社会的責任」と「世界のマーケット拡大への信頼性の向上」と「将来巨大な市場となるバングラデシュでの土壌づくり」という一石三鳥の作戦と考えられます。

バングラデシュでは服がないから学校に行けない子どもや衛生用品が手に入らず不自由している女性がいて、その人々のために、女性用下着などは1ドル以下で販売することを目標としています。貧困ラインで生活する人々にとって、1ドルは決して安い金額ではありませんが、柳井会長は「1ドルでもそれ以上の付加価値があり、消費者に選ばれるモノを作りたい」と話しています。

そして、グラミン銀行の借り手である農村部の女性が商品を1ドル前で販売しても女性も利益を得られる仕組みを創出しています。

(以上、毎日新聞・2010年7月13日・14日号を参考にしました)

まさに、ファーストリテイリングとグラミン銀行と組んだソーシャルビジネスの展開は、柳井会長の「志」と「器」の大きさです。

私は前から後進国の貧困者の人々を超低賃金で雇用し製造コストを下げる不公平取引を禁止するフェアトレードに不信感を持っていました。フェアトレードは貧困者を助けることにはなりますが、結果的に相対的に高い商品を慈悲やお布施の精神で消費者は買わされることになります。ユヌス氏のグラミン銀行や今回のファーストリテイリングのソーシャルビジネスは、あくまでも正規の事業の中で、消費者にも適正な価値を与え、かつ貧困者が自立できる事業です。この「志」と「器」の大きさは、事業を直接的に発展させる戦略ではありませんが、事業の発展になくてはならない偉大なものです。日本の世界一賢い消費者が育てた品質と機能性を重視した世界初のバリュー業態であるユニクロの今後の世界戦略を日本人として期待しています。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺⁴

代表 六車秀之